

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
音楽I	2	1年全類	選択必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	MOUSA1 (教育芸術社)		PDF 資料送付

科目の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を培うとともに、感情を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

評価の観点と方法について

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する
- ・授業への取り組みの姿勢や、決められたルールを守っているか
- ・音楽に対して楽しみをもって授業を受けられているか
- ・奏法等、柔軟に対応し、応用できる能力を持っているか

	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4 〈表現〉 ・楽典	・楽譜を読むために必要な記号や音符の長さ等を理する	小学校、中学校で習ったことの復習と補足説明をして理解を深めていく。	・しっかりと授業にとりくんでいるか
	5 ・リズムトレーニング	・音符が読めない劣等感を持つ生徒が多いので、達成感を持たせる練習をしていく。	・簡単なリズムから徐々に慣らして、楽譜に対する抵抗感をなくしていく	・集中して、内容を理解しながらリズムトレーニングが出来ているか
	6 〈鑑賞〉 名曲探偵 「アマデウス」	・クラシックの名曲を通して、曲の考え方、作曲家の意志の伝え方を学ぶ	・ワークシート等で時代背景、曲の構成等を学んでいく。	・ワークシートに記入し、理解しようとしているか。
	7 〈実技テスト〉		・ペアを決め、別室で受験する	・全てにおいてバランス良く評価する

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	〈表現〉 リズムック・パフ ォーマンス	・大人数でのリズムック パフォーマンスの楽しさ を味わう	・叩く場所や強さで音色、 音量などの変化に気付かせ る。	・協力しあい、演奏 できたか
	10	・グループアンサ ンブル	・少人数のアンサンブル の楽しさを味わう さまざまなグループの演 奏を聴き合う	・グループで曲、演奏形態 などを話し合い、成果発表 会に向けて練習する	・練習の成果を十 分に発揮できた か ・グループの目標 に向かって全員 が力を合わせて 努力しているか ・他のグループも 尊重し、慎みを持 って関わられてい るか
	11	〈鑑賞〉 映画「アマデウス」	・天才モーツァルトの人生 と名曲を味わう	・当時の時代の雰囲気や、 3大オペラに注目し、モー ツァルト音楽も魅力を十分に 味わう	
	12	〈実技テスト〉	・グループで練習してき た成果を人前で発表する	・他グループの前で発表、 披露をさせる	・全てにおいてバ ランス良く評価 する
三 学 期	1	〈表現〉 ・おうた-1-やまさ かや	・美しいハーモニーづく り	・おうたを知る ・卒業式の式典で歌えるよ うにする	・音楽、歌詞を理解 しようとし、積極的 に歌おうとしてい るか
	2	〈鑑賞〉 ミュージカル	ミュージカルの古典・現 代作品に触れる	名曲を取り上げて歌ってみ ることで、芸術性を高める	・作品を身近に感 じることができた か
	3	〈筆記テスト〉			

その他

・進度により授業内容を変更する場合があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
美術1	2	第1学年全類	選択必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	光村図書 美術1	「美術全集」	

<p>科目の到達目標</p> <p>絵画・彫刻・デザインの実技を通して、表現の意図を考え創意工夫し、主体的に創造活動に取り組む。</p> <p>また鑑賞を通して美術文化に親しみ、豊かな創造力を養う。</p>

<p>評価の観点と方法について</p> <p>制作過程の様子や完成作品による実技点と平常点(授業態度等)を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をもとに、テーマの設定力や技法の開発工夫などが主体的に取り組まれているかという事に留意し、学期毎にABCの3段階で査定する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	刈エテション	現代美術の動向を知り、高校美術の内容を理解する。	教科書、図録、模写資料の鑑賞	美術に関心を持ち、学習意欲を持つ。
	5	絵画(人物クロッキー・自画像デッサン)	人物を観察し、技法を工夫して、物の見方を学ぶ。	クロッキーは設定時間を変えて描く。デッサンはグレーの紙に白と黒のコンテで描く。	観察力、集中力、明暗調子の理解。
		絵画(透視図)	遠近法の理論を実技で身につける。	俯瞰図で設問したものを正面からの一点透視図に描き直す。	遠近法の理解。
	6	鑑賞(世界の風景画)	風景画実技の導入	教科書、美術全集で幅広く風景画を鑑賞。	優れた表現に関心を持つ。
	7	絵画(風景水彩画)	自然観察の喜びを通して表現力を向上させる。	校内風景を水彩で描く。着彩、淡彩の技法研究。	感動を持つ。遠近法を理解し、自然な表現ができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	9	彫刻（カービング） {講座によりデザイン課題とする}	素材の中に像をイメージする	「椎茸」をテーマとし、石膏をノミで刻み、ヤスリで削って造形する	明快なイメージ 誠実な手仕事 積極性
	10	鑑賞（日本美術史・東洋美術史・西洋美術史）	美術史を体系的に学習し、東西の交流を知る。	教科書・美術全集の鑑賞。	歴史、地域のつながりを理解し、美に感動する心を持つ。
	11	絵画(模写)	巨匠の造形思想と技法を学び、深く美術と親しむ。	教科書、画集から興味を持てる作品一点を選び、描き込む。 実材模写資料の鑑賞。	造形上の発見。 完成度。
	12				
三 学 期	1	デザイン（基礎理論）	色彩構成理論を学ぶ	参考作品、教科書の参考図を鑑賞し、講義から理論を学ぶ	色の三属性と対比の理解。 形の大小、連続効果等の理解。
	2	デザイン（平面構成）	形体理論、色彩理論を実技で身に付ける	描写構成か、イメージ構成を選び、ポスターカラーで描く。 (テーマ設定は講座による)	理論を生かして平面構成する。
	3				

その他（履修上の留意点・大学進学のための学習など）

作品課題は全力で取り組み、参考作品や資料・道具などは大切に扱う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
芸術科（書道Ⅰ）	2	第1学年・全類	選択必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	教育出版「書道Ⅰ」	奈良県高等学校書道教育研究会「高等書範」	

科目の到達目標 漢字・仮名は古典の臨書を通して、漢字仮名交じりの書については相互の調和と想像力、線質の表し方を追求する。 また、実用書や硬筆など、書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、書写能力を表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことを目的とする。

評価の観点と方法について <ul style="list-style-type: none"> 書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行う。 感性を豊かにし、書の美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。 自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。 書の効用や表現を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。 ○「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点から評価する。

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	書の美 用具用材、姿勢、 執筆、基本用筆	興味関心を持ち、用と美の 一体を感じ取らせる	書写と書道の関係を理解する 文房四宝の知識技能を理解する 筆毛の性能と、姿勢・執筆に慣れる	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む 態度」の3つの観点 から評価する。
	5	漢字の書1 「初唐の楷書」	楷書四種の用筆、運筆法 の理解（三折構造）	完成された楷書古典に触れ、特徴や 技法を知る	
		漢字の書2 「初唐の楷書」	用筆の理解と技法習得	古典の起筆、送筆、収筆の見極めと	
	6	漢字仮名交じり1 「要素」	意図に応じた表現の工夫 三要素の理解	文字の大小、墨の潤濁、線の太細な ど豊かで多様な表現を味わう	
		漢字仮名交じり2 「構成」	特徴と収め方の理解 三構成の理解	行書き、グループ書き、散らし書き の基本を知る	
		高等書範（1号） 漢字の書	古典の特徴を見極める 基本的な作品制作に自ら	三折構造に留意すること 要素・構成を組合せ、落款にも配慮 （※ 一分野を選択）	
	7	漢字仮名交じりの書	の意図を組み込む		

	月	学習単元・教材	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	高等書範（昇級） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	用筆、結構の習得 意図を明確にする	教科書掲載作品から題材を考え、 書之美を追求する （※ 一分野を選択）	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む 態度」の3つの観点 から評価する。
	10	漢字の書（行書） 「王羲之」 漢字の書（行書） 「顔真卿」	用筆、運筆から抑揚を知る	王羲之、顔真卿は歴史的、書的に話 題が豊富であることを理解する	
	11	高等書範（2号） 漢字の書 仮名の書 漢字仮名交じりの書	意図に基づく表現の向上 学習で得た技術を駆使し た表現意欲の具現化	運筆のリズム、墨の濃淡、筆圧、構 成など幅広い表現を探る （※ 一分野を選択）	
	12	仮名の書（連綿） 「高野切第三種」 漢字の書（細楷）	連綿の特徴と技法の習熟 多字数の行間、字間、空間 に注意をはらう	仮名の美の要素として連綿を理解 し、技法を身につける 基本用筆、腕法、線質を確認する	
三 学 期	1	仮名の書 「関戸本古今集」	紙面構成の理解	古典を比較、臨書することで線質や 書風について考える	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む 態度」の3つの観点 から評価する。
	2	仮名の書 「蓬萊切」 高等書範（3号） 漢字仮名交じりの書	要素と構成の理解 自分なりの表現意図を生 かした創意	仮名の書之美しさを知り、加えて 流れや墨つぎ、行間の美をも考える 3分野のうち1つを選択する	
	3	漢字の書 仮名の書		1年間の書道の学習を総括して、ま とめの作品を作成し、充実感と達成 感を味わう	

その他（履修上の留意点）

作品の技術的な到達度の評価とともに、各自の技術習得への真剣さや努力の度合い、用具用材の取り扱いや後片付けへの心配りなども評価に取り入れる。

進度により内容を変更する場合があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
吹奏楽	4	1年生3類 特講	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****			音楽ノート、他

科目の到達目標
表現（歌唱・器楽）と理論という、器楽の追究活動を行うことにより、奏者としての力量を伸ばし、個性と創造性を高め、一手一つの精神を身に付ける。

評価の観点と方法について
各学期末の実技テストと筆記テストと平常点（取り組みの積極性等）を「関心・意欲・態度」
「芸術的感受や工夫」「表現技能」「鑑賞能力」の4つの観点から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	-実技ⅠA-1- ア) スケール イ) エチュード	各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】 （1-初級） スケール・エチュード・独奏の各教則本を使用して個人技の向上を図る。	積極的に個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	5				
	6	-理論ソルフェージュⅠ-1- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	音楽演奏の基本である理論やソルフェージュを充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】 （1-初級） 音楽の論理的な解釈法。肉体による表現。音符の聴力、表現力の強化。	初級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	7	【一学期実技テスト】			

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	-実技 I A - 2- ア) スケール イ) エチュード ウ) ソロ	一学期の各自の基礎を確認し、より安定した個人技術の習得に励む	【独奏訓練】 (1-中級)	積極的に中級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	10				
	11	-理論ソルフェージュ I - 2- ア) 楽典 イ) コールユーブンゲン ウ) 聴音・合唱	一学期に学んだ理論やソルフェージュをより充実させ、合唱曲にも挑戦する。	【楽典・コールユーブンゲン・聴音】 (1-中級)	中級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	12	【二学期実技テスト】			
三 学 期	1	-実技 I A - 3- ●まとめ	ソロのまとめの曲を仕上げる。	【年間計画第三段階】 (1-上級) 年間のまとめ	積極的に上級の個人技術向上への挑戦をおこなっているか。
	2	-理論ソルフェージュ ●まとめ	理論・ソルフェージュの上級を実習する。		上級の聴音・新曲視唱・コールユーブンゲンそして、楽典を正確に演奏することができるか。
	3	-鑑賞 - 【三学期実技テスト】	プロの演奏家やコンクール等の映像を鑑賞し、レポートを書く。	【成果発表会】	より高度な演奏を聴き、分析評価できるか。また自分の課題を明確化できるか。

その他 (履修上の留意点・大学進学のための学習など)
ノートは五線と罫線の入った指定のものを使用のこと。
配られたプリントはなくさないように保管すること。